



上田 晋也さん
Ueda Shinya

〔世持区〕

うえだ しんや/クリ、米、アスパラガス、ゴーヤを生産。令和4年度熊本県農業コンクール大会で新人賞を受賞。JAかみましき栗部会長。

若い力を育成し甲佐の農業を未来につなぐ

「若い世代の頑張りで地域の農業を守っていききたい」と話すのは甲佐町で農業を行う上田晋也さん（世持区）。

民間企業に約10年勤務した上田さんが、農業を始めたのは9年前。努力がそのまま自

分に返ってくる仕事に挑戦したいと考えたことがきっかけだ。

上田さんはJAかみましき甲佐支部の青壮年部で役員などを歴任し、現在はJAかみましき栗部会長として220

人の会員を牽引する。若手農家の育成も担い、経験の浅い就農者に、クリ農園で培ってきたノウハウを伝える。その甲斐もあって、最近ではクリ栽培を導入する若手生産者も増えてきているという。一方で、急斜面での栽培が主なクリ農園を平坦地に集約し、作業効率を上げるなど新たな取り組みにも挑戦している。これらが認められ、令和4年度

熊本県農業コンクール大会で新人賞を受賞した。

肥料や枝切りに工夫を凝らし、作業効率を上げる取り組みにより作られる上田さんのクリは、安価で高品質、ブランド品にも引けを取らない。ふるさと納税の返礼品やネット販売を通してリピーターとなった県外のファンも少なくないという。『大粒で美味しい』『クリのシーズンが楽しい』といった言葉はありがたいです』と笑顔を見せる。

本町でも耕作放棄地の増加が進むなか、上田さんは3年前に耕作放棄地にクリ農園を作り、昨年からはクリが実り始めた。『子どもの頃から身近にあった田畑が荒れ果てていく姿は見たくありません。美しい田園風景を守るためにも次の世代に農業をつなげていきたいです。今後は、町内小学生向けの収穫体験もやってみたいですね。子どもたちに農業の楽しさや、食料の大切さを知ってもらう一歩になれば』と話す上田さんは甲佐の田畑を守り、未来につなぐため歩みを進める。

広報 こうさ

2023年（令和5年）3月号
通巻644号